昭和42年度青少年映画賞・昭和42年度教育映画祭特別賞
第18回東京都教育映画コンクール銀賞

文部省特選

企画・貯蓄増強中央委員会

優秀映画鑑賞会推薦
日本PTA全国協議会推薦
地域婦人団体連絡協議会推薦

総天然色記録映画

素顔のイギリス

上映時間 46分　頒布価格　105,000円

♠ 製作意図 ♠

この映画は、イギリスの家庭生活の中から良い意味のイギリス人気質を紹介して、私たちの暮らしの参考にしょうとするものである。

今のイギリスは、いろいろな面で斜陽化しており、そのような国の家庭生活など採るに足らないとする意見もあり、現に私たちが取材に訪れた1966年の夏には、イギリス経済は深刻な危機に見舞われていて、ウイルソン首相は、これの打開のため、国民に耐乏生活と、もっと働くことを訴えていたほどであった。

しかし、イギリス国民は、もともと古いものでも大切に守りつづけ、新しいものには簡単にとびつかない気風を備え、またいざとなると、しぶとい辛抱づよさをも発揮するといわれている。そして、落着いたイギリスの家庭生活の伝統は、気ぜわしい私たちの日々の生活とは対照的で、それだけに又かえって学ぶべきものがあると考えられる。敢てこの映画を作った所以である。

製作　株式会社　桜映画社

♥解説―話合いの問題点♥

「素顔のイギリス」を見て

評論家　田辺繁子

1．伝統の尊重

古いものを大切にする英国民の態度。また、そこに英国民の精神的風土というものも、よく出ています。落着いた英国民の風格が自然に描かれています。

代表的な登場人物は、余生を古いものの保存運動にささげているケントさん。

2．住宅問題

英国は伝統的に住宅政策をもっており、その基礎になっているものは、「家は城なり」という彼らの言葉に見られる住居にたいする国民の強い関心です。英国民の落着きも、一つには住居からきているとも考えられます。

たとえば、ロフティング医師夫婦の家の新築の話、産業革命時代の住宅など。

3．家庭が教育の場になっていること

専門医のウエンレイさんの家庭のテーブル・マナーその他、貯金して家族そろってキャンプに出かける貧しいキャンペル一家にも、よく出ています。

愛情の場、いこいの場という意味では、ロフティング医師一家の現在などによく出ています。

4．社会福祉に寄与する精神が描かれていること

とくにバーナード博士が提唱した全国的な運動〈両親に問題がある子を預ってその非行化を未然に防ぐ〉に献身する老夫婦は、短かい画面だが印象的。また、幼稚園の不足を補うプレイ・グループという主婦の自発的な運動が紹介されているのも、時節がら話題になるでしょう。

グレート・ホスピタルという、英国でも最古の老人ホームの紹介も、見ものです。

●自分の衣類を整理する子供たち●

5．老人の姿に一貫して眼が配られていること

注意深く見るとさまざまな老人の姿が出ています。とくに、ほほえましいのは、ロフティングの新しい家庭に「おばあさんの椅子」があり「夫の母と妻の母が交代に電話をかけてやってくる」というところです。

6．豊かでも浪費をしないこと

地味でつつましい中流家庭の生活態度が、一貫して出ています。

7．その他

自分の職業を愛して、たやすく変えない英国人気質（守衛のラウンズさん）、英国のすぐれた**政治**がちょっと顔を出す（市役所のところ）、**小学校**、**レジャー**の姿、なども話題になるでしょう。

以上いずれも、今日の日本人の生活を考える上で問題になり、十分話し合いたいところです。「素顔を見せないのを美徳とするイギリス人」の素顔だけに、複雑ですが、一つ一つの問題をとり出して話合えば、利用値価の極めて高いすぐれた教材映画だと思います。（筆者は、文部省教育課程審議会委員、専修大学教授）

●安い予算でキャンプの旅～レジャーを楽しむ一家●

♣すいせんの言葉♣

「素顔のイギリス」をみて

映画評論家　登川　直樹

日本が近代国家になろうとした百年前、手本にしたのはイギリスであったという。その理由が、この映画をみるとよくわかる。その生活の折目の正しさにおいて、質実さと堅実さにおいて、彼らはプライドをもって生きている。あらためて私たちは、生きる心を彼らから学びたいものである。この映画はそれをたのしく興味ぶかく教えてくれる。

（日本大学教授）

◆ あらすじ ◆

ロンドンの朝、年寄りの働く姿が眼につく。朝の早い年寄りには、健康にもよい手頃なパートタイムの仕事がいろいろある。

バッキンガム宮殿の衛兵交代は世界中の観光客を相手に365日繰返されている。

ハイド・パークなどの公園も壮大で見事だが、いつ行ってみてもきれいで、誰もよごさない。それに、イギリス人は、けっして他人を物珍らしげに見ない。そのかわり自分も人に邪魔されずに自分の生活にひたっている。

真夏のセールで賑わっている繁華街で、中流家庭の主婦たちの買物風景を追ってみたが、なかなか慎重で、財布のひもは意外に堅い……。

こ[illegible]なロンドンを後にして、私たちはもっとイギリスをよく知るために、地方の都市へ行くことにした。

●この地方には老人と暮らすのを美徳とする風がある●

ロンドンから北へ 160キロのノオリッチ市。中世にはかなり栄えた町だが、今は平凡な人口12万の一地方都市に過ぎない。

そこに、5年前ロンドンから越してきたロフティングという若い医者夫婦が住んでいる。この町における彼等の生活は、苦しい共稼ぎから始まった。私たちはこの若い夫婦の話をもとに、この町のさまざまな家庭を訪ねてみた。

●メモを作って買物の下見に行く中流家庭の主婦たち●

彼等の最初の友人ケントさんは、旧市内の古い建物を保存する仕事に余生をささげている人で、「外観は古く、中は現代的に住みよく」をモットーにしたわが家に、96才のお母さんと静かに暮らしている。

200年前の産業革命時代に、昔の市の城壁の外に初めて建てられた赤レンガの労働者住宅群は、今も庶民住宅として役立っている。ここに住むラウンズさんは市役所の守衛だが、自分の職業に誇りをもつ昔気質のイギリス人で、家の内外をきれいにするのが趣味の人……。

今は市の周辺に、戦後の住宅団地がつぎつぎにできている。ここに住む若い家族の間では、レジャーや月賦買いも結構はやっている。庶民の生活は昔にくらべるとかなり派手になった。

とはいうものの、ふところ具合の方は、大方夫婦共稼ぎで、今の生活をやっと維持しているというのが実態。その生活をさぐってみると庶民階級の古い習慣がいろいろ見られる。

機械工場のかまたきをしているビネルス君の家庭では、妻は下の子が生まれるまで23年間も靴工場で働いていた。夫は家庭でもよく働く。日曜日には夫が先に起きてフライを揚げたり、食後の食器洗いも夫が先立ちでやる。家計も手堅く、月賦買いなどは一切しない。

また、デパートのじゅうたん係をしている58才のキャンベルさんは、生活が苦しいので、奥さんが家事の合間をぬってパートタイムで、近所の老人や身体障害者の面倒をみている。子供たちにはきびしい母だが、そのひたむきな努力が一家を引き締めている……。

●11才で進学コースをきめる試験があったが、最近廃止された。校長が両親とも相談して中学校をきめる。従って小学校の上級になっても試験勉強はしない ●

イギリスには「家は城なり」という言葉があって、人々の家に対する愛着は非常に強い。ロフティング夫婦も、この町にきて3年目に念願の新しい「城」をつくった。

ロフテイングと親しい専門医のウインレイさんの一家は、いかにもイギリスの中流家庭らしく、家も古風で、子供のしつけも、日々のテーブル・マナーが中心。万事小さいときからきびしく仕込んでいる。

社会に奉仕する精神も、中流家庭には伝統的に流れており、例えば、子供にめぐまれない主婦が、忙しい主婦たちの子供を午前中だけ預るプレイグループという組織活動も盛んである。また、家庭が乱れているとか、両親に問題のある子供を引取って育てるバーナードスという全国的な運動に、夫とともに全財産を投出して献身している老婦人もいる。

さて、8月に入るとこの町では、ほとんどの工場がいっせいに長期休暇（ホリディ）に入る。イギリスは想像以上の北国で、太陽に恵まれないため、せめて日の長い夏の間に、日光を吸収しておこうと、夏のレジャーにわざわざ暑い地方に出かけてゆく。

キャンペルさん一家も、8月も末になってようやく待望のキャンプの旅に出た……。

●専門医ウエンレイさんの家●

●この映画の主役ロフテイング夫妻●

♠ロケの旅から帰って♠

イギリス人はプライバシイ のうるさい国民といわれるが、私たちが接した経験でいうと、一たん家庭の中に入れると非常に親切で辛抱づよい。比較的感情を表にあらわさない。おかげで、私たちもさまざまな家庭の中に入りこみ、十分カメラを据えることが出来た。この映画に登場する多くの家族に、遠く離れた今、心から感謝の意を表したい。

異国の生活にあるものが、果してどこまで私たちの生活にとり入れられ消化できるかは疑問だが、とらえ方によっては興味津々たるものがあることは確かである。人間は本来異質の要素にひかれるところを見ても、自分を育てていく上に何か他からの刺戟や示唆が必要なのであろう。

たとえば、イギリスの一般の家庭の人びとは、他人の真似をしない、流行を追わない、古いものを大切にする。これだけのことをとってみても、新しいもの好きで流行に敏感な日本人とは対照的である。この場合、流行を追わないという彼らの合理的なものを、私たちも育てあげたら、変化を求めてやまない私たちの生来の進歩性や鋭い勘は、ムダ花にならずに、かえっよく生かされるにちがいない。

スタッフ

脚本・監督	村山英治
撮影	江連高元
同助手	田中行
助監督	遠藤明
現地協力	ハワード・照子
編集	沼崎梅子
録音	岡崎三千雄
音楽	間宮芳生
解説	滝沢修

株式会社 桜映画社

東京都新宿区角筈2-84スタンダードビル5階
電話 東京342—5768番（代表）